

## ■財務部

### 1. 概要

当法人の財務状況は、2016年度決算において、医業収入45,343百万円を計上した。これは、医業収入前年比+555百万円(うち入院収入+453百万円・外来収入-12百万円・保健予防活動収入+57百万円他)、医業利益82百万円、税引前当期利益15百万円となる。

財務状況要因説明、今期は診療材料費の増加が顕著となり、材料費率(医業収益割合)29.8%(前年比+1.0%)であった。特に心臓疾患による弁膜症・大動脈弁狭窄症の新しい治療法で、TAVIカテーテルやステントグラフト・PTCAステント・バルーン等高価な材料の使用量増加等によるもの。また医業外収益では、公共的な治療行為(不採算部門)を率先して取組んで来ている当院にとって、欠く事のできない運営補助金や設備整備補助金が予算に対し204百万円の大幅な減額になった事などで大変厳しい現状となった。

今期は実質的には大幅な赤字となったが、これは看護師が増加したものの7対1看護基準を取得するまでに至らず、人件費の増加を収益の増加でカバーできなかった事によるもの。

今期から退職給付債務計算の見直しを開始した事で、退職給付引当金の取崩しを行い、その結果、医業利益82百万円、経常利益316百万円、税引前当期利益15百万円となっている。

財務活動においては、亀田IVFクリニック幕張の開設、森の里病院地域包括ケア病棟及び一般急性期病棟増築の着工、新電子カルテAoLaniの導入等による新たな設備資金等、計画通りの借入を行った。2016年度も資金繰りの安定化を図り、有利子負債の圧縮及び調達金利水準の低減化を昨年につき強化した。これにより、新規設備投資資金の借入額を除く有利子負債は、計画に対し▲762百万円、前年比▲92百万円と圧縮を行った。また平均金利も1.467%となり前年比▲0.145%の成果を収めることができた。

2017年度も、前年度に引き続き安定的資金確保を図るべく、既にシンジケートローンの組成が整い、低金利での年度資金調達枠が確保できている。

### 2. 2017年度推進計画

#### 計画①〔財務の視点〕

2017年度有利子負債は、借入金総額を年間医業収益の75%程度に留める様2016年度と同様努力する。

#### 計画②〔顧客の視点〕

2017年度の損益・資金繰り計画については、2017年度上期実績を十分に検証し、必要に応じて下期の修正計画を策定する。

#### 計画③〔内部プロセスの視点〕

2017年度新会計システムの運用が開始し、課員の理解度向上も含めたより安定稼働を目指す。

#### 計画④〔学習と成長の視点〕

財務部員のスキルアップを図るため、2017年度も係替えによる仕事の互換性を図ると共に各種研修へ積極的に参加する。

### 3. 2016年度評価

#### 計画①〔財務の視点〕

2016年度に設備資金1,090百万円調達する予定だが、2017年3月末借入残高は2016年3月末借入残高よりも圧縮させる。(設備資金調達を除く)

〔結果〕設備資金調達を除いた借入金は、2016年3月末残高より92百万円減少し達成した。

#### 計画②〔顧客の視点〕

2016年度の損益・資金繰り計画については、2016年度上期実績を十分に検証し、必要に応じて下期の修正計画を策定する。

〔結果〕2016年度下期の損益・資金繰り修正を行い2016年10月の理事会で承認された。

#### 計画③〔内部プロセスの視点〕

2017年4月から新会計システム運用開始に伴い、運用マニュアルの完成と全事業所担当者への操作方法等指導を徹底する。

〔結果〕新会計システム操作等説明会を2017年2月27日開催、対象者全員丁寧に操作方法を説明し理解を得た。今後何時でも質問に対応できる体制を整えた。

#### 計画④〔学習と成長の視点〕

財務部員の仕事の係替えによる仕事の互換性を図ると共に各種研修へ積極的に参加する。

〔結果〕経理課員1名異動及び2名新規採用による体制構築を優先したため、係替え及び各種研修への参加は一部にとどまった。

文責：野口正之